

まちづくり市民会議（第3回）取りまとめ資料

■グループAの取りまとめ資料……P. 2

■グループBの取りまとめ資料……P. 7

■グループCの取りまとめ資料……P. 12

●グループA とりまとめ資料 項目ごとの「★」は、メンバー各自が「長岡京市全体として今後特に重要となる取り組み」と考えるものとして、投票した数を示しています。(1人につき3票まで)

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)		長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み (第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など	
福祉・保健・医療	1	「向こう三軒両隣り」による見守り・支えあいを、まちづくりの方針として掲げる ★★	○高齢化が進むなかで、近隣での見守り・支えあいが大 切である。その中核にあるのが自治会活動である。 ○自治会への加入は任意であるが、自治会の果たす役 割をきちんと説明し、加入を勧めていく。 ○自治会未加入者が孤立しないように、気軽に立ち寄 れる場(例:コミュニティカフェ)を設けるなど、地域の 福祉の輪に入るきっかけをつくる。 ○一方、全てを自治会任せにするのではなく、行政とし ても最低限の状況把握・情報提供は適切に行う。	・高齢化と子育ては近隣の支え合い・見守りが鍵 ・地域社会(学校・家庭・地域)で子育てをする環 境づくり ・“向こう三軒両隣”＝新しい地域社会 ・学校だけに任せるのではなく、学校、家庭、地域 が連携して子育てをすることが重要	・子育てに関して相談相手のいない母親が多い ・戦後教育の問題から、個人主義的で自治会活動に 参加しない人がある。また、自治会のない地域也多 い ・支え合う地域づくりには、それを担う活動の単位が 必要。自治会やNPO がこうした活動の担い手として 重要となる。小学校区単位での活動も行われている ・支え合うことは市民がつながっていくことであり、こ うした動きが市民活動に発展していく
	2	中高生の頃から新生 児や小さな子どもにふ れあう機会を増やし、 “親育て”を行う	○昔に比べると、自分が親になるまでに新生児や小さ な子どもと接する機会が大幅に減っている。 ○その経験を補う取り組みを通じて、柔軟性や強さを備 えた“親”を育てていく。	・親になるための教育の重要性・必要性	
	3	充実している福祉・保 健・医療についての情 報提供とアクセス利便 性を向上する	○福祉・保健・医療に関わる主要なサービスや施設は、 比較的充実している。 ○市民が必要なときに必要なサービスが利用できるよう にわかりやすい情報提供や、交通アクセスの利便性 の向上などに取り組む必要がある。	・コミュニティバス運行ルート・時間などの見直し ・バスの利便性の確保	
	4	不足しているサービス や、新たな課題への対 応について、情報を共 有し、関係者の連携に より適切に対応してい く ★★	○待機児童の解消にあたっては、新たな保育所整備だ けにこだわらず、保育ママ(昼間里親)、託児所、認可 外保育所など多様な手段を組みあわせて検討し、子 どもを預かれる枠を増やしていく必要がある。	・子育てしたい・住み続けたいまちづくり ・保育所不足の問題を地域、企業、行政による共 助体制で解決 子育て支援(子育ては公助・共助・自助で行う) ・医療は充実しているようで医療の質に偏りがある ・安心して子供を産める・育てられる医療機関の 安定 ・医療体制が充実している(良い点) ・医療分野での2市1町での連携が必要	・命を守ることが安心して暮らせるまちづくりの基本 ・医師不足、産科不足で、安心して子どもを生めない 状況がある ・妊婦検診を受けない妊婦もいる
生活環境	5	環境活動や緑化活動 への市民参加を促進 すること	○環境活動や緑化活動への市民参加は進んできている が、一部の人の取り組みにとどまっている。関心のな い人にも関心を持ってもらえるような活動を行う必要が ある。 ○環境活動や緑化活動の受け皿を整備する必要がある。 自治会を活用するほか、集合住宅入居者と行政との 接点をつくる必要がある。		
	6	水道事業に関する議 論を市民に分かりやす く伝えること ★	○水道は市民の関心が高い分野であり、市長の水につ いてのビジョンを明確にし、府営水道に関する京都府 との交渉に当たる。 ○水道事業に関する議論が市民に伝わっていない。情 報発信の方法を工夫し、市民に分かりやすく伝える。	・水道事業に関する議論	

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)			長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み (第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など
生活環境	7	ごみの減量やごみ処理ルールの徹底を図ること	○ごみ減量の取り組みが必要である。ごみ収集の有料化で効果があった例もある。有料化にあわせて、市内で買い物をした人にポイント制でゴミ袋を配布すれば、ごみの減量だけでなく商店街の活性化にもつながる。 ○ごみ処理ルールを守れないのは一部の人である。転入者や賃貸住宅入居者へのごみ処理ルールの徹底をはかるほか、住宅管理者への行政の協力なども必要である。		
	8	自然環境(西山)を保全すること(追加) ★★		・自然環境(西山)の保全 ・西山保全における市民参加の取組を他の分野にも広げていく	・西山は市の一番の資源 ・地下水を守るため西山保全の取り組みが必要 ・西山保全の取り組みは市民参加の一番良いモデル
教育・人権・文化	9	子どもや保護者を取り巻く地域社会(大人たち)が、子どもや保護者・学校との関わり方を変えていく	○子どもたちや保護者が、様々な大人と関わる機会を増やしていくことがよい。子どものみならず、保護者にも“育つ機会”が必要となっている。 ○地域と学校の連携を深め、地域が学校を側面的に支援できる仕組みや取り組みが重要。 ○学習障がいについての教員・保護者・地域の理解を深め、過度に重く受け止めるのではなく、学校で学べる環境を整えていくことが必要である。		
	10	リタイア層や若い世代の人たちに地域社会でもっと活躍してもらう	○長岡京市を愛する市民が多い。色々な市民が活躍できる出番を増やしていく。	・地域、学校(学校経営への参加)に様々な専門知識、豊富な経験を持つリタイアされた人材を活用(多忙な先生を地域の人材がバックアップする)	・学校の先生は超多忙 ・校区での取り組みが進んでいる ・PTAの声が大きい←必ずしもそうは言えない
	11	利用者の視点から、文化・スポーツに親しめる機会や情報提供を充実する	○様々な情報が発信されるようになったが、利用者の視点にたってもう少し整理して発信されるとわかりよい。 ○初心者にとって敷居が高い企画がみられる。利用者の視点に立ったイベント・講座の企画がされるとよい。(企画する立場の人はレベルの高いことを求めがちでは) ○高齢化が進むことから、公民館へ出向かずとも、身近な町内での出前講座などが受けられるとよい。		
	12	今ある学校や文化・スポーツ施設をもっと有効に活用する	○財政状況が厳しいので、新たに施設建設などのためにお金を使うことはせずに、今あるものを使うなどのやりくりや工夫をしていくことが大事である。 ○例えば、本市には公立のプールがないので、関係者の理解、運営体制の確保、衛生的な利用を前提として、学校のプールを児童・生徒以外にも開放できるとよい。		
	13	多様性を認める社会を築くこと(追加)			
	14	文化と歴史を活用したまちづくりを進めること(追加)		・文化と歴史を活用したまちづくり	・資源があっても、それを誇りにできていない ・効率重視ではなく文化を見直し、誇りの持てるまちにするべき

分野	【今後重要となる取り組み】リスト （第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加）		長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み （第3回事前提出意見）	意見の理由・背景など	
都市基盤	15	まちづくりを進める際に、方向性を示すこと ★★	○無秩序な宅地開発が行われていると感じている。乱開発を防ぎ、景観づくりを進めるため、市民の意見を聞いたうえで、市が大きな方向性を示してまちづくりを進めるべきではないか。	・市街地の計画的整備 ・景観の確保 ・開田土地区画整理の見直し	・まちづくりに関する計画を策定し公開する ・計画策定は市民参加の手順を踏んで行うべき ・長岡京市単独でなく2市1町で考えるべき
	16	まちづくりの計画や関連する調査結果等を公表すること	○事業を進めるときには、計画や関連する調査の結果等を公表して進めれば、市民として協力できる部分がないか、検討することが可能になる。 ○既に公表している部分もあるが、情報がどこにあるかがわかりにくいいため、市民が情報を見つけやすいように、公表のしかたを工夫することも必要。		
	17	長岡天神駅周辺道路の一方通行化の早期実現	○交通バリアフリーの観点から、長岡天神駅周辺の道路の一方通行化を早急に進める必要がある。	・長岡天神駅周辺の整備と周辺道路の一方通行化 ・阪急長岡天神駅周辺の整備 ・バリアフリー基本構想の具体化（天神周辺の歩道整備） ・連続立体交差化事業の推進	・長岡天神駅周辺の土地区画整理事業は50年前に計画決定されている ・個別の議論ではなく、市の歴史・文化・生活を踏まえた大きな視点からの議論が必要 ・何をすべきかの議論が重要。何から手をつけるかの順位付けが必要 →「まちづくりを進める際に、方向性を示す」ことにつながっていく
	18	生活道路や歩道の整備を進めること（追加）			
	19	治安対策を進めること（追加）★		・治安対策 ・街灯を増やす	・夜暗い道が多く女性が一人で歩くのに不安がある
産業	20	「長岡京」のイメージと交通利便性を活かし、住環境とのバランスに配慮した企業誘致を行うこと	○「長岡京」という名前が良いイメージを持たれているほか、道路や鉄道などの交通網が発達しており、「にそと」が完成すれば関西各方面へ1時間程度でアクセスできる「関西の中心」になることから、それらを活かした企業誘致（物流企業等）を行うことが必要。 ○工場の誘致は住環境に影響を与える可能性があるため、企業の営業拠点（オフィス）を誘致すれば、住環境とのバランスが保たれると同時に、昼間人口のさらなる増加による経済効果を見込むことができる。	・交通の利便性を生かした営業拠点を企業誘致に結び付ける	
	21	市内の資源を活用し、観光客が市内に滞在する仕掛けをつくること ★	○半導体や電子部品の工場、ビール工場などを活用した「産業観光」（工場見学）を進めるため、企業にはたらきかけを行うほか、これらを含めた市内の観光地をルート化し、長岡京を訪れようとする人たちに提案してはどうか。 ○観光バスで訪れる人が食事や買い物をする場所や、温泉のように市内での滞在時間が長くなるような場所など、「お金が落ちる場所」をつくることが必要。 ○観光地のバリアフリー化や、休憩所・トイレ等の整備を進め、高齢者がゆっくり観光し、同時に消費してもらえそうなまちにすることが必要。	・工場見学など産業観光の発掘 ・滞在型観光 ・竹を用いての体験型の観光 ・特産品・おみやげの新規開発、ブランド化 ・観光地の環境整備～遊歩道、休憩所、物産（乙訓2市1町と連携） ・交通の面での2市1町の連携	・市内には多くの資源があるのに、それらが十分に活用されていない ・2市1町の連携については、市民からの活動も動き出している ・連携をさらに進めて、合併も考えるべき
	22	消費者ニーズを踏まえた事業者の自助努力による商業活性化に対して支援を行うこと	○事業者自身が消費者のニーズを把握して事業展開し、空き店舗を活用した商店街活性化方策を検討するなど、事業者の自助努力による商業活性化を促すような支援を行うことが必要。	・長岡京市にふさわしい商業の活性化	
	23	担い手の確保や農産物の共同販売の仕組みづくりによる農業活性化	○高齢者には大変な農作業の担い手や、農産物のブランド化を進める人材など、農業の担い手不足を解消するためには、市内に限らず市外からも、（若い）担い手を募ることが必要。また、農業生産組織の法人化や認定農業者の参入誘導などを図ることも考えられる。 ○農業者が農産物を共同で販売する仕組みを確立し、「つくったものが売れる場所」（直売所やスーパー内への出店）を確保することで、市内での農業生産を維持することができ、地産地消も進むのではないかな。		

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)		長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み (第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など
行政改革と市民参画	24	市民が参加できる環境整備を行うこと ★★★★★	- 市民が参加できる環境整備を行うこと - 幅広い年齢層からの意見収集する努力をすること - 市民参画協働のPR不足・・・さらなる努力?? - 市民が参加しやすい(多くの人に参加してもらえる)システムづくり(現役世代を含む) - 短時間で気軽に参加できる仕組みづくり	- 計画と事業への市民参加 - みどりのサポーター制度の取り組みを他の分野に広げていけないか(ただし、他分野への展開は様々な理由で簡単ではない)
	25	事業仕分けを含め各種事業の点検の仕組みをうまく連携させて行うこと	公共施設マネジメントの実施	公共施設マネジメントの計画が策定されているが、実行できていない
	26	効率的でマイナス情報も含む情報公開を行うこと ★	- 広報体制はゼロベースで見直し - 効率的でマイナス情報を含めた情報公開	
	27	長期的な視野にたち、重点をおいた市政・まちづくりをすすめること(追加)	- 総花的政策から意思のある市政へ - 財政、硬直に注意	
	28	職員意識や、行政内の連携を高めること(追加)	- 行政の横の繋がりを充実させる - 人財(材)硬直に注意	
	29	広域連携や合併を進めること(追加)	広域連携の推進→合併の是非	
	30	議会改革を進めること(追加) ★★★★★	- 行政改革→議会改革 - 議員定数の見直し(支出削減のため議員定数や報酬の見直し)	議会の活性化のため、市民への報告会など市民参加の仕組みを作る

【長岡京市全体として今後特に重要となる取り組みとして選んだもの】

◎市民参加の仕組みづくり

- －現役を含む多くの市民に参加してもらえる仕組みづくりが大切である。
- －市民参加には、計画策定段階、事業実施段階の２種類がある。
- －事業実施段階での市民参加には、「みどりのサポーター制度」という成功例がある。これを他分野に展開していく。

◎議会改革

- －議会改革は行政改革の要である。
- －議会終了時の市民への報告会を実施してはどうか。こうした取組は行政への関心を高め、市民参加にもつながる。
- －市職員の削減ではなく、議員定数の削減による支出削減を考えるべきではないか。

◎自然環境の保全

- －長岡京市の一番の資源は緑、水といった自然環境である。こうした自然環境を守っていくことを市民が望んでいる。
- －自然環境保全活動は市民参加の一番のモデルとなっており、今後とも力を入れていく。

◎まちづくりの方向性を示して合意・実行

- －大きな視点からまちづくりの方向（何をすべきか）を議論することが必要である。
- －計画を市民に公開して、合意を得て、実行していく（市民参加）ことが大切である。

◎地域での支えあい

- －高齢者、子どもを近隣で支えあう環境づくりが必要である。
- －こうした取組を支える活動の単位として、自治会やNPOの活動が重要となる。小学校区の単位での活動も行われている。

◎様々な主体の連携による安心して暮らせるまちづくり

- －地域、企業、行政、団体などが連携して保育所を設置・運営するなど、共助による安心して暮らせるまちづくりを進める。
- －安心して子どもを産める、育てられるまちをめざすべきである。

●グループB とりまとめ資料 項目ごとの「★」は、メンバー各自が「長岡京市全体として今後特に重要となる取り組み」と考えるものとして、投票した数を示しています。(1人につき3票まで)

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)		長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み (第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など
福祉・保健・医療	1	「向こう三軒両隣り」による見守り・支えあいを、まちづくりの方針として掲げる ★★★★★ ○高齢化が進むなかで、近隣での見守り・支えあいが必要である。その中核にあるのが自治会活動である。 ○自治会への加入は任意であるが、自治会の果たす役割をきちんと説明し、加入を勧めていく。 ○自治会未加入者が孤立しないように、気軽に立ち寄れる場(例:コミュニティカフェ)を設けるなど、地域の福祉の輪に入るきっかけをつくる。 ○一方、全てを自治会任せにするのではなく、行政としても最低限の状況把握・情報提供は適切に行う。	・町内会組織の見直し ・町内会の活動や情報共有を充実していくことが必要。 ・町内会に加入することのメリットを伝えていくことが必要。	・町内会の加入率が70%となっている。
	2	中高生の頃から新生児や小さな子どもにふれあう機会を増やし、“親育て”を行う ○昔に比べると、自分が親になるまでに新生児や小さな子どもと接する機会が大幅に減っている。 ○その経験を補う取り組みを通じて、柔軟性や強さを備えた“親”を育てていく。		
	3	充実している福祉・保健・医療についての情報提供とアクセス利便性を向上する ○福祉・保健・医療に関わる主要なサービスや施設は、比較的充実している。 ○市民が必要なときに必要なサービスが利用できるようにわかりやすい情報提供や、交通アクセスの利便性の向上などに取り組む必要がある。	・コミュニティバスの運用 ・谷間(すべて)の人々への対応 ・障害者や生活保護受給者、就職支援が必要な人たちに手を差しのべることが必要。	・支援メニューをいくら充実しても、窓口で待っているだけでは不十分。困っている人たちと各種サービスとを結び付けるための、一歩前に出たサービスが必要。
	4	子育て支援 ★★ ○待機児童の解消にあたっては、新たな保育所整備だけにこだわらず、保育ママ(昼間里親)、託児所、認可外保育所など多様な手段を組みあわせて検討し、子どもを預かれる枠を増やしていく必要がある。	・おしめがとれる迄位は保育所ではなく実の親が育てる方がよい ・待機児童の解消	・共働きがしやすい環境づくりが必要。 ・子育てをした後に社会復帰できる社会としていくことが必要。 ・育児休業の取得促進などは国の役割。
	5	防災対策	・災害時に対応できる公園の整備	
生活環境	6	環境活動や緑化活動への市民参加を促進すること 自然環境(西山)を保全すること(追加) ○環境活動や緑化活動への市民参加は進んできているが、一部の人の取り組みにとどまっている。関心のない人にも関心を持ってもらえるような活動を行う必要がある。 ○環境活動や緑化活動の受け皿を整備する必要がある。自治会を活用するほか、集合住宅入居者と行政との接点をつくる必要がある。	・行政だけでなく市民の環境保全意識の向上 ・ホテルの保全、西山の緑のサポーターなどの取組は成功しているといわれているが、その成功要因を分析し、他の分野に活かしていくことが必要。	
	7	水道事業に関する議論を市民に分かりやすく伝えること ○水道は市民の関心が高い分野であり、市長の水についてのビジョンを明確にし、府営水道に関する京都府との交渉に当たる。 ○水道事業に関する議論が市民に伝わっていない。情報発信の方法を工夫し、市民に分かりやすく伝える。	・安全できれいな水の提供と確保	・水道についての市民の重要度は高い。
	8	ごみの減量やごみ処理ルール徹底を図ること ○ごみ減量の取り組みが必要である。ごみ収集の有料化で効果があった例もある。有料化にあわせて、市内で買い物をした人にポイント制でゴミ袋を配布すれば、ごみの減量だけでなく商店街の活性化にもつながる。 ○ごみ処理ルールを守れないのは一部の人である。転入者や賃貸住宅入居者へのごみ処理ルールの徹底をはかるほか、住宅管理者への行政の協力なども必要である。		

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)			長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み (第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など
教育・人権・文化	9	子どもや保護者を取り巻く地域社会(大人たち)が、子どもや保護者・学校との関わり方を変えていく	○子どもたちや保護者が、様々な大人と関わる機会を増やしていくことがよい。子どものみならず、保護者にも“育つ機会”が必要となっている。 ○地域と学校の連携を深め、地域が学校を側面的に支援できる仕組みや取り組みが重要。 ○学習障がいについての教員・保護者・地域の理解を深め、過度に重く受け止めるのではなく、学校で学べる環境を整えていくことが必要である。	・子どもの見守り体制 ・学校教育・家庭教育	・昔は大人たちによる子どもへの声かけがあった。
	10	学校教育 ★★★★		・教育に力を入れるべきである。	・まちづくりの根本は教育である。 ・教育の方針が市民には見えていない。
	11	利用者の視点から、文化・スポーツに親しめる機会や情報提供を充実する ★	○様々な情報が発信されるようになったが、利用者の視点にたってもう少し整理して発信されるとわかりよい。 ○初心者にとって敷居が高い企画がみられる。利用者の視点に立ったイベント・講座の企画がされるとよい。(企画する立場の人はレベルの高いことを求めがちでは) ○高齢化が進むことから、公民館へ出向かずとも、身近な町内での出前講座などが受けられるとよい。	・地域のスポーツ振興 ・文化力はまちの活性化になる。文化力を発信していくことが大事である。	
	12	今ある学校や文化・スポーツ施設をもっと有効に活用する	○財政状況が厳しいので、新たに施設建設などのためにお金を使うことはせずに、今あるものを使うなどのやりくりや工夫をしていくことが大事である。 ○例えば、本市には公立のプールがないので、関係者の理解、運営体制の確保、衛生的な利用を前提として、学校のプールを児童・生徒以外にも開放できるとよい。		
	13	多様性を認める社会を築くこと(追加)			
	14	文化と歴史を活用したまちづくりを進めること(追加)			

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)		長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み(第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など
都市基盤	15	長岡天神駅周辺のまちづくり ★★★★		・特急停車駅であるが駅前がさびしい。 ・今の計画を進めるのが難しいのであれば、一度立ち止まって、計画を見直すことも必要ではないか。 ・高架化がされていない特急停車駅である阪急岡本駅が参考になるのではないか。
		まちづくりを進める際に、方向性を示すこと		・色々と計画があるなかで、取り組みやすい所から整備が進み、大事な所の整備が遅れているように思われる。その結果、計画は実現ができていない。
		まちづくりの計画や関連する調査結果等を公表すること		
		長岡天神駅周辺道路の一方通行化の早期実現	・阪急電車の高架化 ・阪急長岡天神駅を平面交差のまま駅舎改装(ロータリーの整備も必要)	・ラッシュアワーの渋滞・混雑を解消して欲しい。
	16	生活道路や歩道の整備を進めること(追加)	・道路の補修(①歩道の整備、②安心して自転車が走れる車道に衣替える)	
	17	治安対策を進めること(追加)		
産業	18	「長岡京」のイメージと交通利便性を活かし、住環境とのバランスに配慮した企業誘致を行うこと		
	19	市内の資源を活用し、観光客が市内に滞在する仕掛けをつくること ★	・豊富な地域資源を観光資源として生かし、「長岡京市」という歴史的なブランド名を全国区にすることで、観光による経済効果を高める ・「電子書籍」等の、IT利用による観光案内 ・地元のお土産を協力して観光客に売っていく。 ・人を呼び込む仕掛けづくりやPRが必要。	・鉄道会社のキャンペーンで光明寺がPRされたため、去年は観光客が大幅に増えた。PRや話題づくりが重要である。 ・お金を落としてもらうことが必要である。
	20	消費者ニーズを踏まえた事業者の自助努力による商業活性化に対して支援を行うこと		
	21	担い手の確保や農産物の共同販売の仕組みづくりによる農業活性化 ★	・遊休農地の活用が必要。 ・地産地消に取り組む。	・市場出荷では、農業はあまり儲からない。

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)		長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み (第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など	
行政改革と市民参画	22	市民が参加できる環境整備を行うこと リタイア層や若い世代の人たちに地域社会でもっと活躍してもらおう ★★	○市民参加には、(退職した市民だけではなく)現役の市民が参加できるようにする工夫が求められる。 ○様々な参加の機会は設けられているが、市民目線で本当に参加できる環境がきちんと整えていくことが必要。 ○緑のサポーター制度など、長岡京市には市民参加の成功例がある。しかし、まだ特定の分野に留まった取り組みで、幅広い分野に広げていく必要がある。 ○長岡京市を愛する市民が多い。色々な市民が活躍できる出番を増やしていく。	・行政内に住民参加促進機関をつくる(相談窓口) ・行政運営:市民を味方につけられていない ・コミュニティ:マンネリ化。行政、職員と連携・協力との連携 ・無関心層への取組 ・社会貢献活動につなげるルートをつくる(コーディネート機能) ・自治会への加入促進	・一般市民に情報を提供・共有し、巻き込んでいくことが必要。 ・社会貢献をしたいが入り口がわからないというリタイア層が多い。 ・自分ができることをコーディネートして欲しい。結びつける支援を行って欲しい。 ・市民活動センターは敷居がやや高い。
	23	事業仕分けを含め各種事業の点検の仕組みをうまく連携させて行うこと	○事業仕分けは、行政に関する市民の関心を高める良いイベントであり、職員が危機感をもって仕事をする契機になる。 ○市民参加の機会を設けるとともに、仕分け結果の予算への反映が求められる。		
	24	効率的でマイナス情報も含む情報公開を行うこと ★	○長岡京市は情報公開に積極的で、様々な広報媒体があるが、多くの予算が使われており、効率化することが必要。 ○情報提供の方法を市民の目線で行うとともに、市政に関するマイナス情報も提供する姿勢が必要。		
	25	長期的な視野にたち、重点をおいた市政・まちづくりをすすめること(追加) ★		・行政運営:経営志向が欠けているらしい ・人口の減少に歯止めを掛ける	
	26	職員意識や、行政内の連携を高めること(追加)		・縦割りでなく横のつながりを強くする	
	27	広域連携や合併を進めること(追加)			
	28	議会改革を進めること(追加)			・

【長岡京市全体として今後特に重要となる取り組みとして選んだもの】

◎向こう三軒両どなり～自治会の活性化

- －町内会の活動を活性化していく。地域での情報共有や住民への発信が重要である。
- －町内会の活動に参加するメリットを伝え、町内会への加入を促進する。
- －困っている人に手を差し伸べる“温かい地域づくり”を進める。

◎子育て支援

- －共働き世帯を支援する。そのために、待機児童対策や子育て後の職場復帰を支援する。

◎学校教育～次の世代を育てる人づくり

- －基礎知識をしっかりと身につけて社会に出て欲しいので、基礎基本をしっかりと習得させる。
- －勉強だけでなく、その他のことも大事にしたい。次の世代を育てていく“人づくり”を進める。
- －小さい頃から社会と関わる機会を設けるなどして、子どもの間に社会に出る準備がしっかりとできるようにする。

◎長岡天神駅周辺のまちづくり

- －特急停車駅として駅周辺の魅力を向上させる。多くの人を訪れるようになれば商業の活性化にもつながる。
- －ラッシュ時に踏み切りを横断できない。歩行者の安全確保が重要である。
- －今の計画が進んでいない要因を分析して、場合によっては、今の計画をもう一度見直すことも必要である。
- －高架になっていない特急停車駅である阪急岡本駅周辺のまちづくりが参考になる。

◎市民参加～会社から社会へ～

- －社会貢献をしたいリタイア層が多い。コーディネートやマッチングを行う窓口や、情報提供が必要である。
- －住民が話し合える場をつくる必要がある。お互いの問題意識を共有することから人のつながりが広がる。
また、話し合いを重ねることにより、まちづくりにおいて大事なこと、重点を置くことの共有が進む。
- －文化・スポーツや農業など、色々な分野で市民参加が進むことで、「市民が元気に活躍するまち」になっていく。

●グループC とりまとめ資料 項目ごとの「★」は、メンバー各自が「長岡京市全体として今後特に重要となる取り組み」と考えるものとして、投票した数を示しています。(1人につき3票まで)

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)		長岡京市全体として特に重点を置くべき 取り組み(第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など
福祉・保健・医療	1	「向こう三軒両隣り」による見守り・支えあいを、まちづくりの方針として掲げる ★★★★ ○高齢化が進むなかで、近隣での見守り・支えあいが必要である。その中核にあるのが自治会活動である。 ○自治会への加入は任意であるが、自治会の果たす役割をきちんと説明し、加入を勧めていく。 ○自治会未加入者が孤立しないように、気軽に立ち寄れる場(例:コミュニティカフェ)を設けるなど、地域の福祉の輪に入るきっかけをつくる。 ○一方、全てを自治会任せにするのではなく、行政としても最低限の状況把握・情報提供は適切に行う。	・地域福祉の推進(地域が地域を支える) ・高齢者福祉の推進 ・児童の健やかな育成	・行政だけではなく、市民参画も含めて、地域全体で地域を支える仕組みが必要。 ・アンケート結果では市民の関心が高い。限りある財源は、ニーズの高い分野に投入したほうがよい。
	2	中高生の頃から新生児や小さな子どもにふれあう機会を増やし、“親育て”を行う ○昔に比べると、自分が親になるまでに新生児や小さな子どもと接する機会が大幅に減っている。 ○その経験を補う取り組みを通じて、柔軟性や強さを備えた“親”を育てていく。		
	3	充実している福祉・保健・医療についての情報提供とアクセス利便性を向上する ○福祉・保健・医療に関わる主要なサービスや施設は、比較的充実している。 ○市民が必要なときに必要なサービスが利用できるようにわかりやすい情報提供や、交通アクセスの利便性の向上などに取り組む必要がある。		
	4	不足しているサービスや、新たな課題への対応について、情報を共有し、関係者の連携により適切に対応していく ★★ ○待機児童の解消にあたっては、新たな保育所整備だけにこだわらず、保育ママ(昼間里親)、託児所、認可外保育所など多様な手段を組みあわせて検討し、子どもを預かれる枠を増やしていくことが必要である。	・子育て支援の充実(環境を整備すること) ・子育て世代の流入と安住の為の環境づくり	・人が住まないと市は発展しないので、人口増につながる世代(子育て世代)を呼び込むことが重要。 ・子育て支援の充実が、子育て世代の転入を促すような魅力になるのではないかな。
生活環境	5	環境活動や緑化活動への市民参加を促進すること ○環境活動や緑化活動への市民参加は進んできているが、一部の人の取り組みにとどまっている。関心のない人にも関心を持ってもらえるような活動を行う必要がある。 ○環境活動や緑化活動の受け皿を整備する必要がある。自治会を活用するほか、集合住宅入居者と行政との接点をつくる必要がある。		
	6	水道事業に関する議論を市民に分かりやすく伝えること ○水道は市民の関心が高い分野であり、市長の水についてのビジョンを明確にし、府営水道に関する京都府との交渉に当たる。 ○水道事業に関する議論が市民に伝わっていない。情報発信の方法を工夫し、市民に分かりやすく伝える。		
	7	ごみの減量やごみ処理ルールの徹底を図ること ○ごみ減量の取り組みが必要である。ごみ収集の有料化で効果があった例もある。有料化にあわせて、市内で買い物をした人にポイント制でごみ袋を配布すれば、ごみの減量だけでなく商店街の活性化にもつながる。 ○ごみ処理ルールを守れないのは一部の人である。転入者や賃貸住宅入居者へのごみ処理ルールの徹底をはかるほか、住宅管理者への行政の協力なども必要である。		
	8	自然環境(西山)を保全すること(追加) ○西山の保全	・西山の保全	・水源涵養やCO ₂ 削減につながる。 ・西山の保全は水の保全につながる。水が良いと、その土地でできる食物もおいしくなる。

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第 1 回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)		長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み (第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など	
教育・人権・文化	9	子どもや保護者を取り巻く地域社会(大人たち)が、子どもや保護者・学校との関わり方を変えていく	○子どもたちや保護者が、様々な大人と関わる機会を増やしていくことがよい。子どものみならず、保護者にも“育つ機会”が必要となっている。 ○地域と学校の連携を深め、地域が学校を側面的に支援できる仕組みや取り組みが重要。 ○学習障がいについての教員・保護者・地域の理解を深め、過度に重く受け止めるのではなく、学校で学べる環境を整えていくことが必要である。	・この街を愛せる大人の中で成長できる子供達の環境づくり	・子育てにおいては、母親が孤立することなく、心身ともに安定していることが必要。 ・心身の安定をもたらすのは、子育て中の母親を支える周囲の気持ちと、母親自身の自立。 ・「長岡京市は子育てをするには良い場所だ」と思えるような環境づくりが必要。 ・いわゆる「モンスターペアレント」については、親を教育することが必要ではないか。 ・「モンスターペアレント」は、親側の問題もあるが、対応しきれない学校側の問題でもあり、コミュニケーションの問題であるといえる。
	10	リタイア層や若い世代の人たちに地域社会でもっと活躍してもらう ★★★★	○長岡京市を愛する市民が多い。色々な市民が活躍できる出番を増やしていく。	・元気な高齢者の社会参加	・65歳を過ぎても、まだまだ活躍できる。 ・各分野の取り組みに高齢者が参加することで、地域における活動の担い手となるとともに、自身の生きがいづくりや介護予防にもつながる。
				・若い人の感性、次世代の市民に継承できる「公」、「公智」を育てたい	・公民館事業などで社会人講師を活用するなど、市民の「智」を継承する仕組みづくりが必要。 ・「緑のサポーター」は、60 団体約 850 名が参画している。子どもや老人が交流することで、地域における支え合いの基盤ができる。
				・経験・記憶の継承	・長岡京市出身の市職員が減っていることに加え、住民についても市外からの転入者が増えているので、これまで住民であれば当たり前知っていたことも知らない人が増え、共通の基盤が持てなくなっている。
	11	利用者の視点から、文化・スポーツに親しめる機会や情報提供を充実する	○様々な情報が発信されるようになったが、利用者の視点にたってもう少し整理して発信されるとわかりよい。 ○初心者にとって敷居が高い企画がみられる。利用者の視点に立ったイベント・講座の企画がされるとよい。(企画する立場の人はレベルの高いことを求めがちでは) ○高齢化が進むことから、公民館へ出向かずとも、身近な町内での出前講座などが受けられるとよい。		
12	今ある学校や文化・スポーツ施設をもっと有効に活用する	○財政状況が厳しいので、新たに施設建設などのためにお金を使うことはせずに、今あるものを使うなどのやりくりや工夫をしていくことが大事である。 ○例えば、本市には公立のプールがないので、関係者の理解、運営体制の確保、衛生的な利用を前提として、学校のプールを児童・生徒以外にも開放できるとよい。			

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)			長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み (第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など
教育・人権・文化	13	多様性を認める社会を築くこと(追加) ★		多様性を認める社会	20～30年前とは働き方や家族の形態が変化しており、地域のつながりができにくくなっている。 - 生活環境や生活様式の違いを理解し合うことが必要(人権的な側面も含めて)。 - 外国人の住民も増えているが、言語や文化の違いから地域に溶け込めない人もいる。受け入れ側が体制を整えることも必要だが、外国の方自身も、ためらわずも地域に入ってきてほしい。
	14	文化と歴史を活用したまちづくりを進めること(追加)		文化と歴史を活用して、心の豊かさを追求すること	- 心の豊かさを追求することにお金はいらない。 - 外国人の住民とは、お互いの文化を紹介しあって交流できるのではないかな。
都市基盤	15	まちづくりを進める際に、方向性を示すこと ★	○無秩序な宅地開発が行われていると感じている。乱開発を防ぎ、景観づくりを進めるため、市民の意見を聞いたうえで、市が大きな方向性を示してまちづくりを進めるべきではないか。		
	16	まちづくりの計画や関連する調査結果等を公表すること	○事業を進めるときには、計画や関連する調査の結果等を公表して進めれば、市民として協力できる部分がないか、検討することが可能になる。 ○既に公表している部分もあるが、情報がどこにあるかがわかりにくいいため、市民が情報を見つけやすいように、公表のしかたを工夫することも必要。		
	17	長岡天神駅周辺道路の一方通行化の早期実現 ★	○交通バリアフリーの観点から、長岡天神駅周辺の道路の一方通行化を早急に進める必要がある。	- 阪急長岡天神駅周辺整備 - 長岡天神駅周辺の整備のスピードアップ	- 市の西の玄関口であり、合意形成は難しくても、手をこまねいてはいけなない。 - 交通の安全が確保されておらず、まちの中心的功能として早急に対応が必要。 - 高齢者や子育て世代(ベビーカー)などの安全を確保するための整備が必要。
	18	生活道路や歩道の整備を進めること(追加)			
	19	治安対策を進めること(追加)			

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)			長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み (第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など
産業	20	「長岡京」のイメージと交通利便性を活かし、住環境とのバランスに配慮した企業誘致を行うこと ★	○「長岡京」という名前が良いイメージを持たれているほか、道路や鉄道などの交通網が発達しており、「にそと」が完成すれば関西各方面へ1時間程度でアクセスできる「関西の中心」になることから、それらを活かした企業誘致(物流企業等)を行うことが必要。 ○工場の誘致は住環境に影響を与える可能性があるため、企業の営業拠点(オフィス)を誘致すれば、住環境とのバランスが保たれると同時に、昼間人口のさらなる増加による経済効果を見込むことができる。	・産業振興は税収に直結する最優先課題	・福祉政策を支えるにもお金が必要。 ・平成18年から平成20年には事業所数・従業者数とも減少しているのに、話題にならない。 ・定額給付金を市の産業振興に結びつけるような取り組み(プレミアム付き商品券の発行など)がなかった。市に熱意がないのではないかと。 ・水道料金は使用料が多いほど高くなる設定になっているが、それでは企業が流出してしまう。
	21	市内の資源を活用し、観光客が市内に滞在する仕掛けをつくること	○半導体や電子部品の工場、ビール工場などを活用した「産業観光」(工場見学)を進めるため、企業にはたらきかけを行うほか、これらを含めた市内の観光地をルート化し、長岡京を訪れようとする人たちに提案してはどうか。 ○観光バスで訪れる人が食事や買い物をする場所や、温泉のように市内での滞在時間が長くなるような場所など、「お金が落ちる場所」をつくることが必要。 ○観光地のバリアフリー化や、休憩所・トイレ等の整備を進め、高齢者がゆっくり観光し、同時に消費してもらえようようなまちにすることが必要。		
	22	消費者ニーズを踏まえた事業者の自助努力による商業活性化に対して支援を行うこと	○事業者自身が消費者のニーズを把握して事業展開し、空き店舗を活用した商店街活性化方策を検討するなど、事業者の自助努力による商業活性化を促すような支援を行うことが必要。		
	23	担い手の確保や農産物の共同販売の仕組みづくりによる農業活性化 ★	○高齢者には大変な農作業の担い手や、農産物のブランド化を進める人材など、農業の担い手不足を解消するためには、市内に限らず市外からも、(若い)担い手を募ることが必要。また、農業生産組織の法人化や認定農業者の参入誘導などを図ることも考えられる。 ○農業者が農産物を共同で販売する仕組みを確立し、「つくったものが売れる場所」(直売所やスーパー内への出店)を確保することで、市内での農業生産を維持することができ、地産地消も進むのではないかと。		

分野	【今後重要となる取り組み】リスト (第1回・第2回のとりまとめ＋第3回事前提出意見をもとに追加)		長岡京市全体として特に重点を置くべき取り組み (第3回事前提出意見)	意見の理由・背景など	
行政改革と市民参画	24	市民が参加できる環境整備を行うこと ★★★★	○市民参加には、(退職した市民だけではなく)現役の市民が参加できるようにする工夫が求められる。 ○様々な参加の機会は設けられているが、市民目線で本当に参加できる環境がきちんと整えていくことが必要。 ○緑のサポーター制度など、長岡京市には市民参加の成功例がある。しかし、まだ特定の分野に留まった取り組みで、幅広い分野に広げていく必要がある。	・集合住宅・自治会など末端組織の活用 ・集合住宅を1つの単位とみなして、自治会の結成をはたらきかける ・「新しい公共」で市民が参加できる範囲の見極め(市民がお互いに助け合うしくみ) ・取組みの全市での盛り上がり ・本市民会議の貴重な提案を今後の総計審・総計に生かす ・計画等の進行管理を市民もチェックできるしくみづくり	・「地域」がクローズアップされている。 ・財産区にマンションが建つと、個人情報の壁もあり、民生委員の目が届かない。 ・民生委員が行政との窓口として機能しないと、行政の思いが伝わらず、市民の声も吸い上げられない。 ・現在の取り組みは分野特化型のものが多いので、分野横断(融合)型の取り組みや、行政と市民の協働が必要である。 ・計画等は、「つくる」ことを目的にしてはならない。
	25	事業仕分けを含め各種事業の点検の仕組みをうまく連携させて行うこと	○事業仕分けは、行政に関する市民の関心を高める良いイベントであり、職員が危機感をもって仕事をする契機になる。 ○市民参加の機会を設けるとともに、仕分け結果の予算への反映が求められる。	・行政の守備範囲の見直し ・本市事業仕分けの見直しによる予算の重点配分 ・事業仕分けの継続実施	・予算を一律にカットするのではなく、重要度を順位付けし、優先順位の高い者から重点配分すべき。 ・市の方針が明確にわかるような姿勢を見せることが必要。
	26	効率的でマイナス情報も含む情報公開を行うこと	○長岡京市は情報公開に積極的で、様々な広報媒体があるが、多くの予算が使われており,効率化することが必要。 ○情報提供の方法を市民の目線で行うとともに、市政に関するマイナス情報も提供する姿勢が必要。	・常にタイムリーな情報公開の徹底 ・行政の広報力(「営業力」)の強化	・広報誌や HP だけでは不足。行政が自ら市民に売りこむような「営業力」を持つことが必要。
	27	長期的な視野にたち、重点をおいた市政・まちづくりをすすめること(追加) ★★★★		・少子高齢化と人口減少社会に対処する行政戦略の転換 ・長期的視野に立った長岡京市の生き残り、スマートシュリンクの道筋づくり ・昼、夜両方の人口ベース作り	・生産年齢人口が減少しているが、人口なくして財政は成り立たない。 ・下水問題(借金が多い)や、職員の退職金・給与など、市は財政的な問題を抱えている。 ・都市基盤については、将来の人口減を見通して、次世代の視点(財政基盤、人口基盤)も含めたまちづくりを進めることが必要。 ・市の損益分岐点はどこか。どれだけの人口、どれだけの産業で市のバランスがとれるのかを考えるべき。
	28	職員意識や、行政内の連携を高めること(追加)		・「住民」「市長」「議員」「職員」の危機意識への改革	
	29	広域連携や合併を進めること(追加) ★		・2市1町合併による乙訓地域の相乗効果の実現(水道・福祉)	
	30	議会改革を進めること(追加)		・「長岡京議会基本条例」制定の検討	

【長岡京市全体として今後特に重要となる取り組みとして選んだもの】

◎長期的な視野に立ち、重点を置いたまちづくりを進めること

- －少子高齢化、人口減少が進行するなかで、市においても行政戦略を転換し、「10年後、100年後の長岡京市をどうするか」というビジョンをもつことが必要。
- －長岡京市が今後生き残っていくためには、長期的な視野に立ち、スマートシュリンクの道筋をつくっていく。
- －どれだけの人口、どれだけの産業で市のバランスがとれるのかを考慮したうえで、昼間・夜間両方の人口を確保する。

◎「向こう三軒両隣」による見守り・支えあいをまちづくりの方針として掲げる

◎市民が参加できる環境整備を行うこと

- －行政だけではなく、「地域」における市民相互が支え合う仕組みをつくる（＝「新しい公共」）。
- －それぞれの分野が独自に取り組みを進めるのではなく、分野横断的な取り組みを進める。
- －既存のネットワークでつながっていない団体や個人も参画でき、裾野が広がるような仕組みをつくる。
- －市は、市民が参加しやすくなるように、マイナス情報も含め、情報をわかりやすく伝える仕組みを整備する。
- －まちづくり市民会議の成果を計画策定に活かすと共に、進行管理も市民がチェックできるような仕組みをつくる。

◎不足しているサービスや、新しい課題への対応について、情報を共有し、関係者の連携により適切に対応していく

◎リタイア層や若い世代の人達に地域社会でもっと活躍してもらう

- －元気な先輩方の社会参加により、知識・知恵・視点・手法を共有できれば、若い世代が勇気づけられ、若い視点や感性が活きてくる。さらに、新たな課題にも向き合う力になる。
- －市民の間で共有した情報を、市ともしっかり共有し、連携をとる。
- －こうした人の資源（ソフト）を活かした支援ができれば、ハードの整備をしなくても、安住できる環境づくりにつながる。